サウジアラムコとの共催シンポジウム

『Saudi Aramco-JCCP Symposium on Refinery of the Future』

東京プリンスホテル 2F 鳳凰の間、2019 年 9 月 17 日(火)、18 日(水) (同時通訳付)

本シンポジウムでは、まず初めに直近の課題である IMO2020 低硫黄燃料対応に関して燃料供給側と消費側の双方向の情報交流を行うセッションを設けました。次に、あらゆる分野で活用が期待されている AI・DX の石油精製分野における情報交流を行うセッションを設けました。続いて地球温暖化対策から石油燃料の減退が考えられる一方で、化学品需要の成長が見込まれており、石油の余剰留分の活用や石油の高付加価値化の視点から、石油化学と石油精製についてそれぞれのセッションを設けました。

会場には、石油会社、石油化学会社、船舶関連会社、AI・DX 関連会社、エンジニアリング会社、重工会社、自動車会社、大学や研究機関等から 360 名を超える参加者が集まり、質疑応答や会場での対話を含めて広範な分野に及ぶ情報交流が行われました。

シンポジウムを通じた情報交流から、今後の新たな両国間のコラボレーションに発展することを期待したい。

サウジアラムコとの共催シンポジウム会場風景